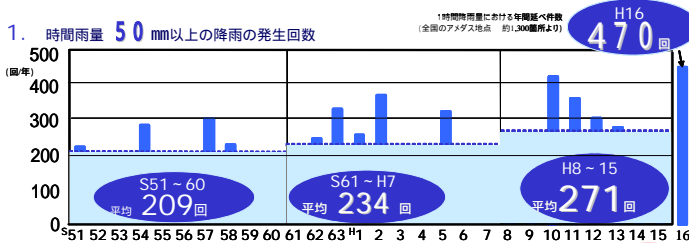


都市における浸水対策の新たな展開

下水道政策研究委員会 浸水対策小委員会 提言要旨 (1)

深刻化する都市水害の要因と新たな課題

近年、下水道の計画を越える集中豪雨が頻発し、人命や都市機能に甚大な影響を及ぼす被害が顕在化している。



平成16年 台風22号
東京都新宿区
<写真:読売新聞>



平成11年 地下室浸水
による死亡事故
福岡市博多区

時間と財政的制約の中で、緊急かつ効率的に浸水被害の軽減を図るためには、**施策の転換が必要!**

都市における浸水対策の基本的方向

<これまで>

<これから>

➤ 「降雨(外力)」主体の目標

➤ 「人(受け手)」主体の目標設定

➤ 地域全域で一律の整備

➤ 地区と期間を限定した整備(選択と集中)

➤ ハード施設のみでの整備

➤ ソフト・自助の促進による被害の最小化

「人(受け手)」主体の目標設定

<これまで>

概ね5年に1回の豪雨(時間雨量50mm相当)に対応



<これから>

再度災害防止、甚大な被害の未然防止の観点から、例えば既往最大降雨を対象として、**地区ごとに想定される浸水被害に応じた目標を設定。**

【目標の具体例】

生命の保護の観点から
地下街・地下施設への浸水防止

都市機能確保の観点から
交通の支障となる道路冠水の防止

個人財産保護の観点から
床上浸水防止

地区と期間を限定した整備(選択と集中)

<これまで>

全ての地区の浸水対策を同じペースで実施



<これから>

重点的に投資する地区については、**目標達成期間を概ね5年とする。特に、生命の保護に関わる地区については、さらに短縮し概ね3年とする。**

【重点地区の例】

【目標達成期間】

地下街など地下空間の
高度利用地区

短期間
概ね3年

災害時要援護者関連施設を
有する地区

商業・業務機能や主要ターミナル
駅など都市機能の集積地区

中期間
概ね5年

一般市街地で床上浸水の
常襲地区

都市における浸水対策の新たな展開

下水道政策研究委員会 浸水対策小委員会 提言要旨 (2)

ソフト・自助の促進による被害の最小化

<これまで>

ハード施設のための整備



<これから>

地区と期間を限定し、**効率的なハード対策**を着実に進める一方で、**自助を促進**することにより被害の最小化をめざす。また、効果的に自助を導くための**ソフト対策を強化**する。

具体的施策

総合的な都市浸水対策の推進

【自助のメニュー例】
地下施設等の止水板設置
浸水時の土のう設置
貯留浸透施設設置の推進など



自助を積極的に支援

【ソフト対策の強化】
自助を支える情報収集・提供等の促進

内水ハザードマップの公表
リアルタイム情報の提供促進
水害教育と情報発信の推進 など

【効率的なハード対策】
重点的かつ効率的な施設の整備と効果的な運用

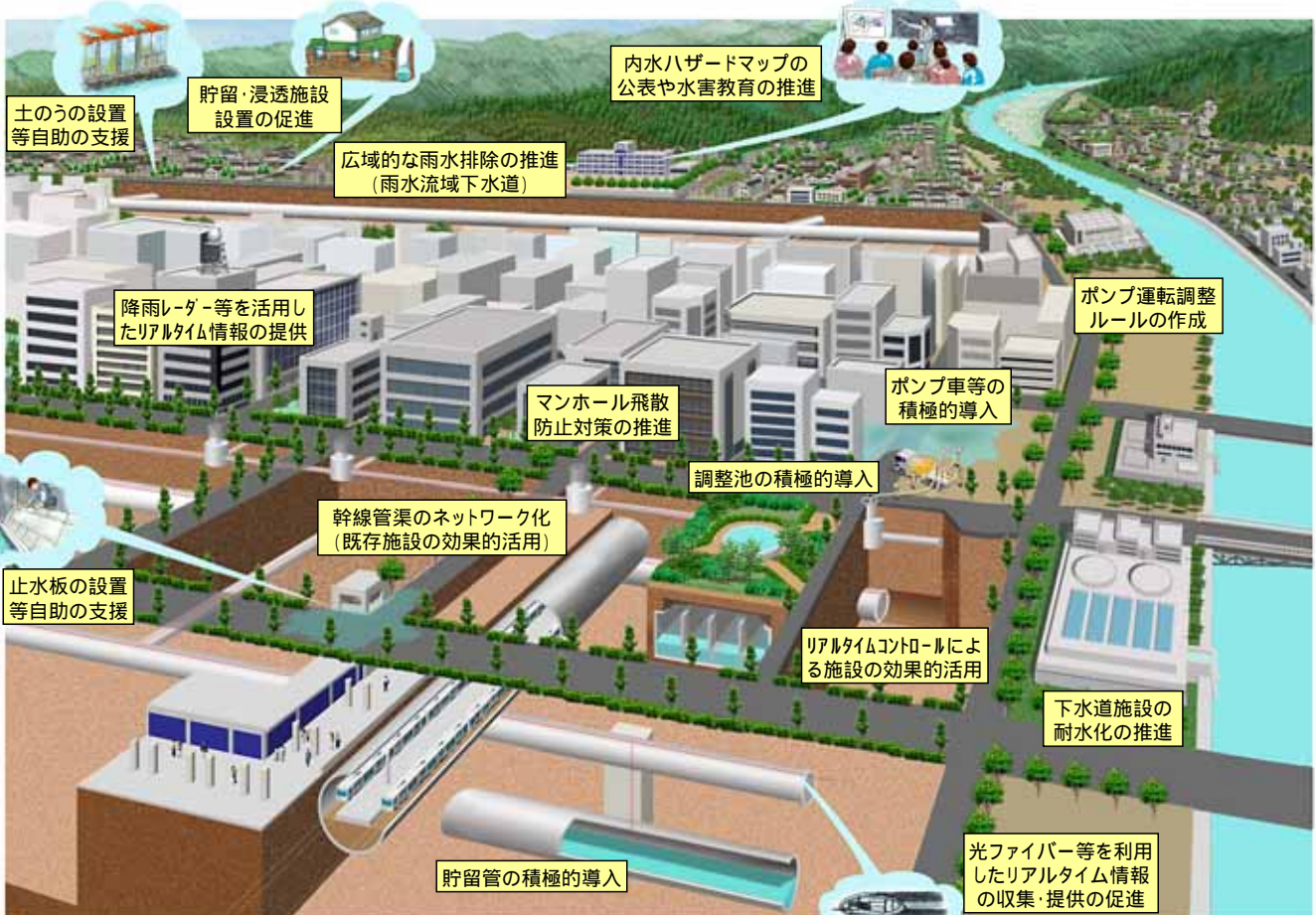
貯留・浸透施設の積極的導入
既存施設の効果的活用
(幹線管渠のネットワーク化、リアルタイムコントロール)など

流域の視点からのアプローチ

ポンプの運転調整ルール
雨水流域下水道
貯留浸透施設設置の促進 など

非常時に備えた防災体制・機能の強化

下水道施設の耐水化の推進
ポンプ車の積極的導入
マンホール飛散防止対策の推進など



都市における総合的な浸水対策のイメージ